

甦った車人形の灯を守り続ける

竹間沢車人形保存会

復活から40年。現在18人が郷土芸能を守るため、伝えるために活動しています。



車人形の公演は舞台を清める舞、「三番叟」で幕を開ける。この舞は来場者の健康を祈願するもので、人形遣いは心を込めて演じる。



週2回行われている練習。本番では黒子になり顔を覆うため、演技中の表情を見ることはできない。



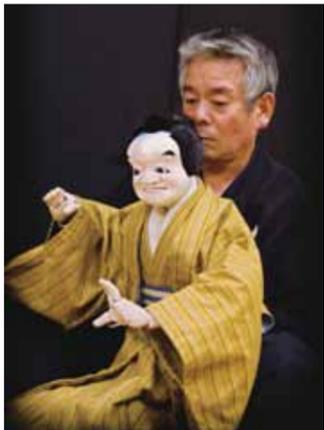
舞台監督と動きを入念にチェック。



衣裳は手作り。修繕も手作業。



我が子のような人形にくしを通す。人形も気持ちが悪さそう。



人形を操る末吉豊隆さん。人形遣いとして20年以上の経験を持つ。

継承される車人形

甦った竹間沢車人形の灯は、復活公演後も竹間沢車人形保存会が中心となり、守り続けられています。現在18人が所属し、近年では、子どもたちの体験活動や車人形教室など、郷土芸能への興味や関心を高める活動を積極的に取り組んでいます。

昭和50年3月には車人形の用具一式が、埼玉県有形民俗文化財に、平成15年2月には竹間沢車人形芝居として、三芳町無形民俗文化財に指定されました。

人形に魂が宿る瞬間

週2回、竹間沢集会所で練習を行っている保存会。取材に訪れたときは12月16日の公演に向け、練習をしている真っ

只中。今回の公演で演じられる「小栗判官一代記」は、小栗判官と照手姫の純愛物語ともいえる語り物。その小栗判官役の池上勇さんと照手姫役の末吉豊隆さんの2人の演技は、人形とは思えない「色気」を感じさせ、小栗判官の父を演じる池上喜雄さんが人形を操ると、魂が人形に宿り、まさに一心同体。その迫真の演技は生で見ないと絶対に伝わりません。

今年は復活公演40周年。12月16日にコピスみよしで『竹間沢車人形保存会』と『三代目若松若太夫(説経節)』が出演する竹間沢車人形公演が行われます。受け継がれた灯……。全身全霊を演技に注ぎ、人形に魂が宿るその瞬間を自分の目で確かめてみませんか。

受け継がれてきた郷土芸能。

その灯を伝承するべく立ち上がった人たちがいる。

全身全霊を込め人形を操る。

伝わるだろうか

人形の息吹が。

聞こえるだろうか

人形の鼓動が。

体験してほしい。

伝えていきたい。

大好きな町の大切な文化だから。

特集 受け継がれる灯 終



復活公演から40周年。いま再び人形に魂が宿る。

第11回 竹間沢車人形公演

都の高貴な家に生まれた小栗は、深泥ヶ池の美女に化けた大蛇と関係を持ってしまい、父は勘当し常陸の国へ。それから三年、小栗は相模の国に美しい照手姫がいることを知り、押しかけ婿となる。これに腹を立てた照手姫の父によって、家来とともに毒殺される。ところが、死んだ小栗は地獄で閻魔大王の裁きにより「熊野の湯に入れば元の姿に戻ることができる」との手紙とともに、現世に送り返されるが、手足は糸より細く、見えない、聞こえない、しゃべれない飢餓の姿だった――。

12月16日

13:30 開場
14:00 開演

チケット販売場所/コピスみよし ☎ 049-259-3211

歴史民俗資料館 ☎ 049-258-6655

※満席になり次第、チケット販売は終了となります。

会場/三芳町文化会館ホール(コピスみよし) 料金/大人 500円 小・中学生 300円(全席自由)

※未就学児の同伴、入場はご遠慮ください。

生涯学習課 ☎ 049-258-0019 (内線 514) コピスみよし ☎ 049-259-3211 歴史民俗資料館 ☎ 049-258-6655